

美術

内容の取扱いと指導上の留意点はどうなっているのか。 (表現形式や技法, 材料)

美術の表現及び鑑賞の指導については、以下の(1)～(5)の事項について配慮して行わなければならない。

2 第2の内容の指導については、次の事項に配慮するものとする。

(1) 各学年の「A表現」の指導に当たっては、生徒の学習経験や能力、発達特性等の実態を踏まえ、生徒が自分の表現意図に合う**表現形式や技法, 材料**などを選択し創意工夫して表現できるように、次の事項に配慮すること。

ア 見る力や感じ取る力、考える力、描く力などを育成するために、**スケッチの学習を効果的に取り入れる**ようにすること。

イ 美術の表現の可能性を広げるために、写真・ビデオ・コンピュータ等の**映像メディアの積極的な活用**を図るようにすること。

ウ 日本及び諸外国の作品の独特な表現形式、漫画やイラストレーション、図などの**多様な表現方法を活用**できるようにすること。

エ 表現の材料や題材などについては、**地域の身近なものや伝統的なものも取り上げる**ようにすること。

○ 表現形式や技法, 材料など

表現形式や技法, 材料などの指導については、生徒の表現に関する資質や能力をはぐくむ重要な手段としてとらえ、意図に応じて表現できるように、それぞれの特性を知識としてのみならず体験を通して身に付け、技能として活用できるように配慮する必要がある。

指導に当たっては、教師の価値観のみによる一方的な指導や、特定の表現形式や表現手段、技法、材料の画一的な教え込みにならないように留意する。

生徒一人一人が自分の表現意図をしっかりともち、それを形や色などで実現できるように指導することであり、そのために全員が画一的な表現になることなく、様々な表現形式や技法、材料に触れさせる中で、生徒が自分に合い自分が行いたい表現形式を選択し創意工夫する態度を培うようにすることである。

○ スケッチの活用

スケッチは、それ自体が表現の喜びを味わうものであるとともに、作品の発想や構想の場面から、完成、発表や交流までのあらゆる場面で必要な学習である。単に描く力だけでなく、見る力や感じ取る力、考える力などを育成するものであり、その重要性を認識し、表現の能力を育成するために効果的に取り入れる必要がある。

スケッチは、大きく次の3点でとらえることができる。

- ① 自然や人物、ものなどを直に見つめて、諸感覚を働かせ様々な視点から対象をとらえて描くスケッチ
- ② 見たことや思いついたアイデアなどを描きとめ、イメージを具現化するための発想や構想を練るスケッチ
- ③ 伝える相手の立場に立って、伝えたい情報を分かりやすく絵や図に描くプレゼンテーションとしてのスケッチ

表現の学習においては、育成する資質や能力を踏まえて、これらのスケッチを効果的に取り入れ、表現の能力を総合的に培う必要がある。

○ 映像メディアの活用

映像メディアによる表現については、今後も大きな発展性を秘めている。これらを活用することは表現の幅を広げ、様々な表現の可能性を引き出すために重要である。また映像メディアは、アイデアを練ったり編集したりするなど、発想や構想の場面でも力を発揮する。次のような特性を生かし、積極的な活用を図るようにすることが大切である。

写真

被写体に対して、どのように興味をもち感動したのか、何を訴えたいのかなどを考え、効果的に表現するための構図の取り方、広がりや遠近の表し方、ぼかしの生かし方などを工夫することも大切である。また、何枚かの写真を組み合わせた組み写真として物語性をもたせることもできる。

ビデオ

時間の経過や動きを生かした表現であり、その特質を理解させる必要がある。グループで分担を決め、学校紹介やコマーシャルをつくったり、動きを連続させて描いた漫画をコマ撮りして、短編アニメーションをつくったりする。

コンピュータ

何度もやり直しができたり、取り込みや貼り付け、形の自由な変形、配置換えなど、構想の場面での様々な試みができることに特長がある。そのよさに気付かせ、それを生かした楽しく独創的な表現をさせることが大切である。

○ 多様な表現方法の活用

生徒の表現の能力を一層豊かに育成するためには、ねらいや目的に応じて表現方法を選択できるように、多様な表現方法を学習する機会を効果的に取り入れる必要がある。

生徒の表現の能力を高めるためには、国や地域などによる表現の違いや特色に気付かせ、幅広い柔軟な思考力や表現の技能をもたせることが大切である。そのためにも、多様な表現方法に興味をもたせ、自分の表現意図にあった方法を活用できるようにすることが求められる。

例えば、日本の美術の表現には、扇や短冊、屏風に描いた絵、絵巻物など様々な大きさや形に描かれた絵がある。また、余白の生かし方、上下、遠近、吹抜屋台などいろいろな表現方法がある。多様な表現形式、表現方法のよさを理解させ、自分の表現に取り入れるなどして表現に幅をもたせるようにすることが大切である。

漫画やイラストレーション、図などの表現方法の指導においては、その特長を理解させ、表現する対象や目的に応じて、形や色彩の調和や効果を考えて表現させることが大切である。

○ 地域の材料や題材などを取り上げる

美術科は自然のものから人工の材料までを自由に取り込み、表現することのできる教科である。

材料の取り上げ方については、小学校での材料体験を基にし、それを活用したり、組合せを工夫したりするなどして、中学校では発展的に取り上げるようにする。また、新しい材料などに挑戦することは表現の可能性を広げたり生徒の意欲を喚起したりするために必要である。各地域には陶芸用の粘土、砂、石、和紙、木、竹などの独特の材料があり、それらの地域の材料の特性を生かした表現方法や題材を工夫して指導することが大切である。

地域の伝統的な工芸、民芸など、地域の材料とそれに伴う表現技術、伝統工芸家や作家など経験豊かで美術の学習に有効な人材なども併せて活用するなどし、美術が生活に根ざし、伝統や文化の創造の礎となっていることを、体験を通して理解させることも大切である。